

**「万博のインパクトを活かした大阪の将来に
向けたビジョン」の策定に向けた検討資料
(第2回有識者WG資料)**

世界の将来像等関係資料

大阪府企画室

目次

1. 世界人口の将来予測等

- 人口増加、人口構造の変化
- 都市化

2. 世界経済の将来予測等

- 中間所得層の増加
- 世界経済の多極化

3. アジアの台頭

- アジアの時代
- アジアの“日本化”

4. 世界の健康（認知症人口、糖尿病人口）

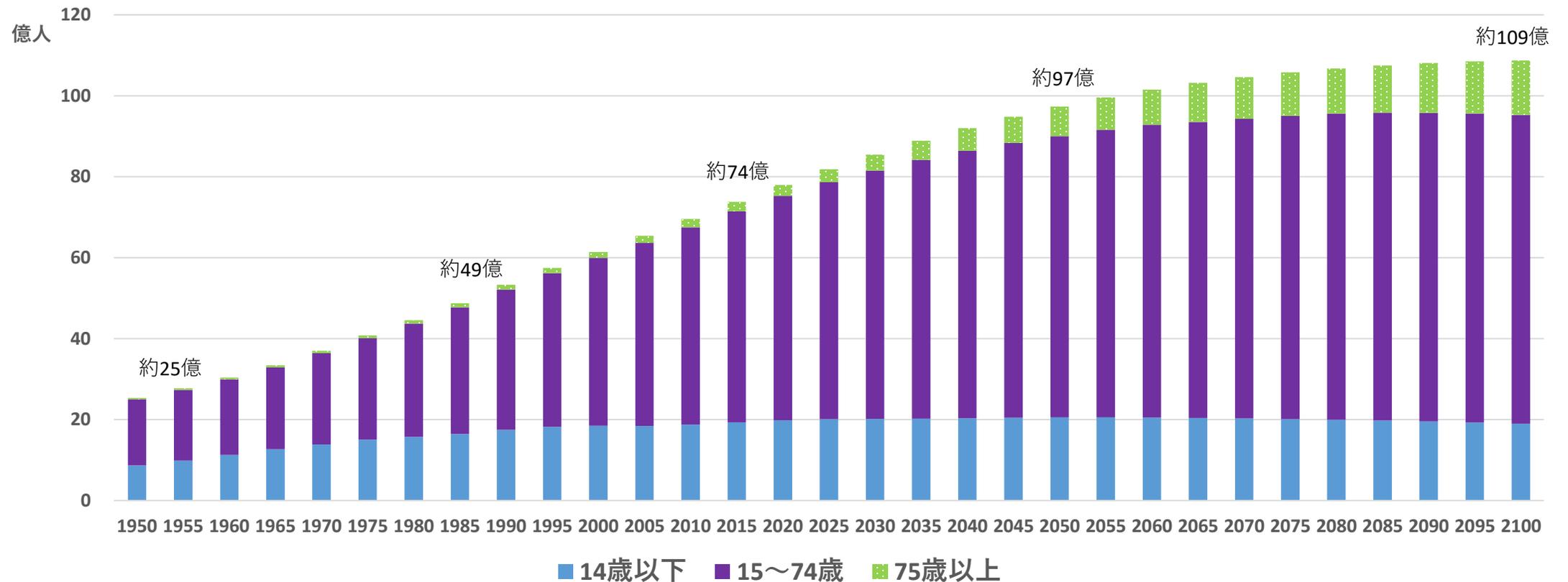
参考 1. メガトレンド「世界の今後を占ううえで無視することのできない大きな流れ」

参考 2. 現在の世界と日本の比較

その他. 大阪府の年齢三区分別将来予測人口（75歳以上区分等）

1 世界人口将来予測等（人口増加、人口構造の変化）

- 世界人口は2019年の77億人から、2030年には85億人（10%増）、**2050年には97億人（26%増）**、2100年には109億人に（42%増）に達すると予測されている。
 - 世界人口は**今世紀末頃、ほぼ100億人でピークに達する可能性がある。**
 - 2019年現在、**世界人口の11人に1人が65歳以上だが、2050年には6人に1人へと増える見込み。**
- 出典：国際連合「世界人口予測・2019年版」（関連HPを含む）



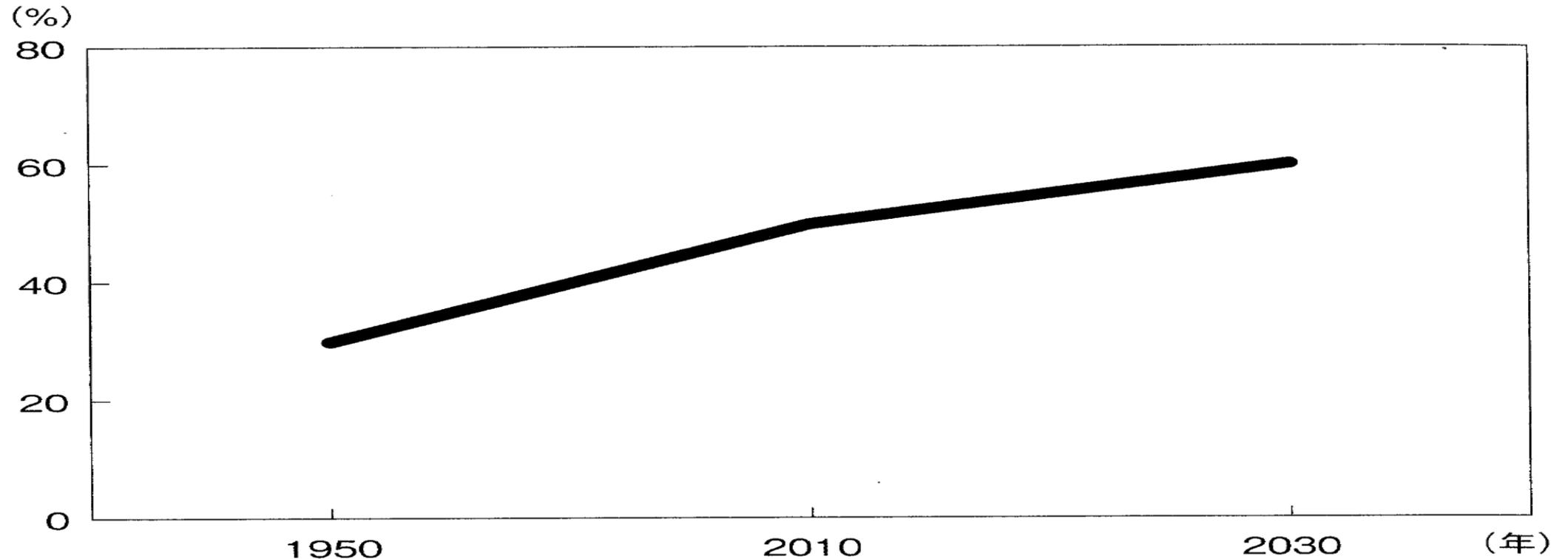
1 世界人口将来予測等（都市化）

- 都市部に住む人口は**毎年6,500万人ずつ増加**し続けおり、2030年には世界人口83億人のうち、**都市人口は約6割**の49億人になるとみられている。（1950年の都市部人口は約3割。）
- **人口増加が激しい国ほど、都市人口の増加も顕著**。例えば、2011年から2030年までの間で、世界都市人口増加の37%を、中国とインドが占める。

出典：Office of the Director of National Intelligence

「National Intelligence Council Global Trends 2030: Alternative Worlds」(December 12, 2012)

■ 都市部人口の比率

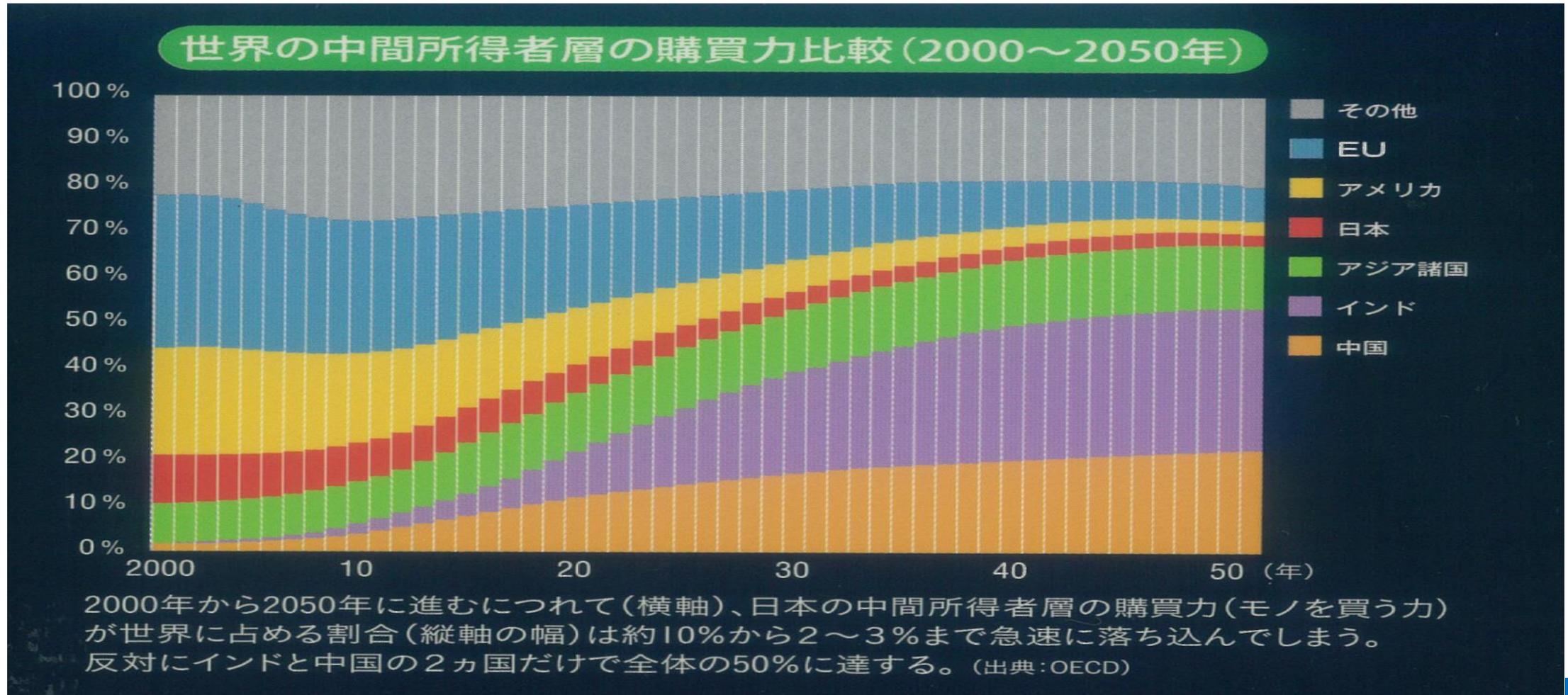


2 世界経済の将来予測等（中間所得層の増加）

- 世界の多くの国々で**中間所得層が増加**。今後15～20年の間に、現在の10億人程度から20億人超に増加するとみられる。
- 地域別でみると、中国・インドの影響で、**アジアの中間所得層が増加**。また、アフリカでも中間所得層が増加すると予測。

出典：Office of the Director of National Intelligence

「National Intelligence Council Global Trends 2030: Alternative Worlds」(December 12, 2012)

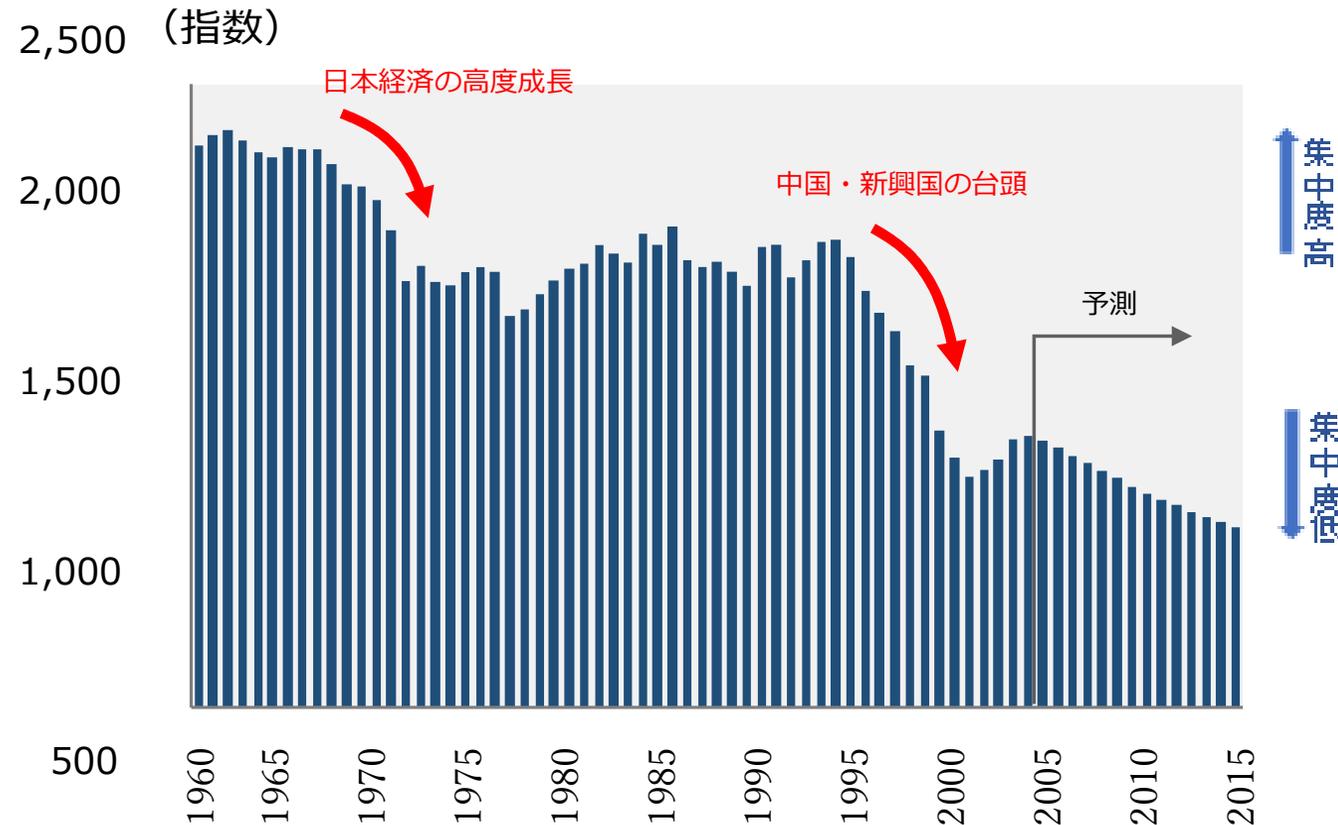


2 世界経済の将来予測等（中間所得層の増加）

- 2005年から中国とその他の新興国のGDPシェアが徐々に拡大し、**欧米二極集中の傾向が弱まっている。**
 - 2030年までに中国の経済規模が米国に並んだとしても、インドやASEANなどのさまざまな国が世界GDPに占めるシェアを高めるため、**過去の欧米二極の時代ほど集中度は高まらないと見込まれる。**
- 出典：株式会社三菱総合研究所政策・経済研究センター「内外経済の中期展望 2018-2030年度」（2018年）

欧米二極の世界から多極体制へ

各国 GDP シェアをもとに算出したハーフィンダール・ハーシュマン指数



注：欧州は EU の現加盟国の GDP を合算してシェアを算出。
出所：実績は世界銀行「World Development Indicators」、予測は三菱総合研究所作成

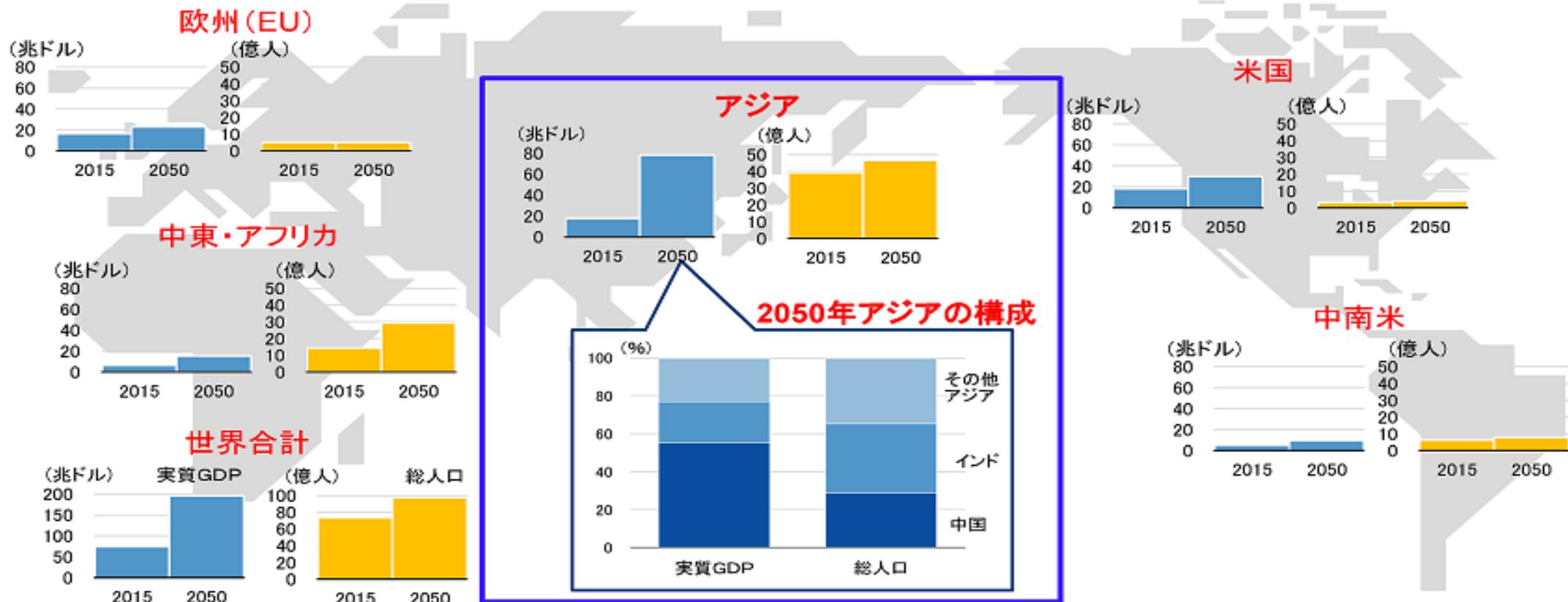
3 アジアの台頭（アジアの時代）

- 2050年の世界経済の中心は**名実ともにアジア**となり、世界の**GDPに占めるウエイトは約4割**、**人口規模では5割弱**に達する。（アフリカの時代は2050年以降。人口ウエイトでは3割に達するも、GDPのウエイトでは1割に満たず。）

出典：みずほファイナンシャルグループリサーチ&コンサルティングユニット

「Oneシンクタンクレポート MIZUHO RESEARCH&Analysis 2050年のニッポン」（2017年）

2050年の世界の地域別人口・GDP



(注) グラフ横軸は全て暦年。実質GDPは2015年の名目GDPドルベースを基準に試算。アジアは日本を除く。

(出所) IMF、UNよりみずほ総合研究所、みずほ銀行産業調査部作成

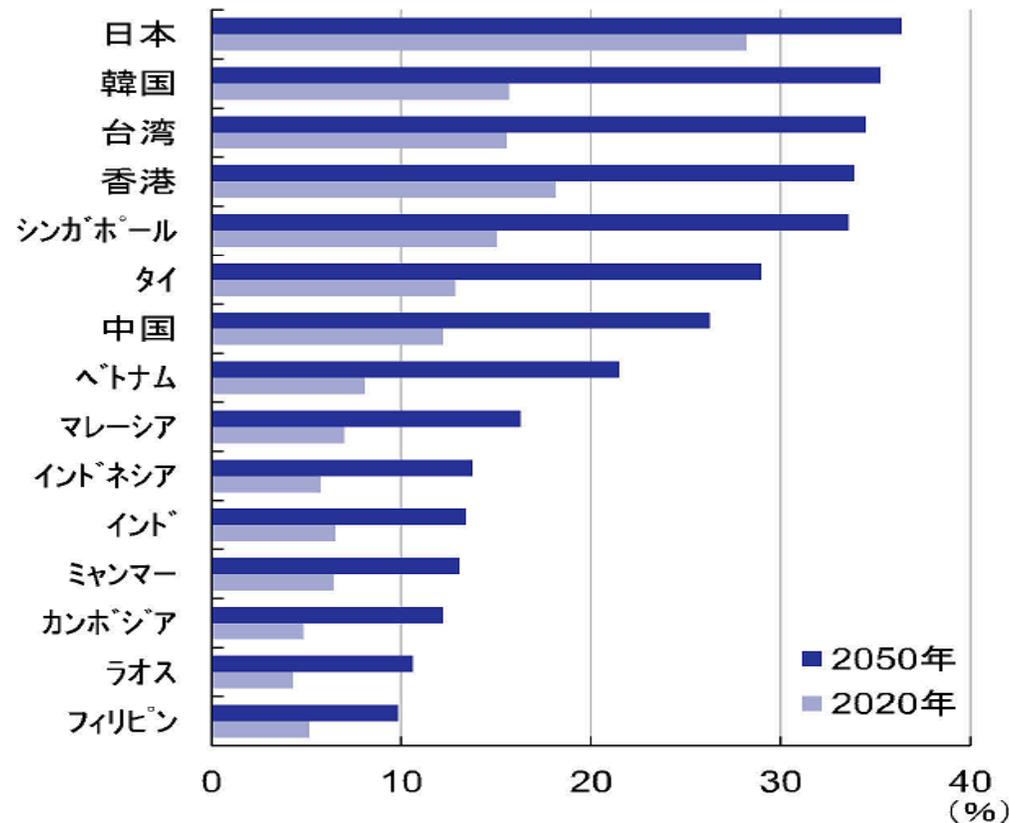
3 アジアの台頭（アジアの“日本化”）

- アジアでは経済成長が進む一方、“日本化”（少子化、高齢化、都市化等をもたらす負の側面）への対応が課題になる。

出典：みずほファイナンシャルグループリサーチ&コンサルティングユニット

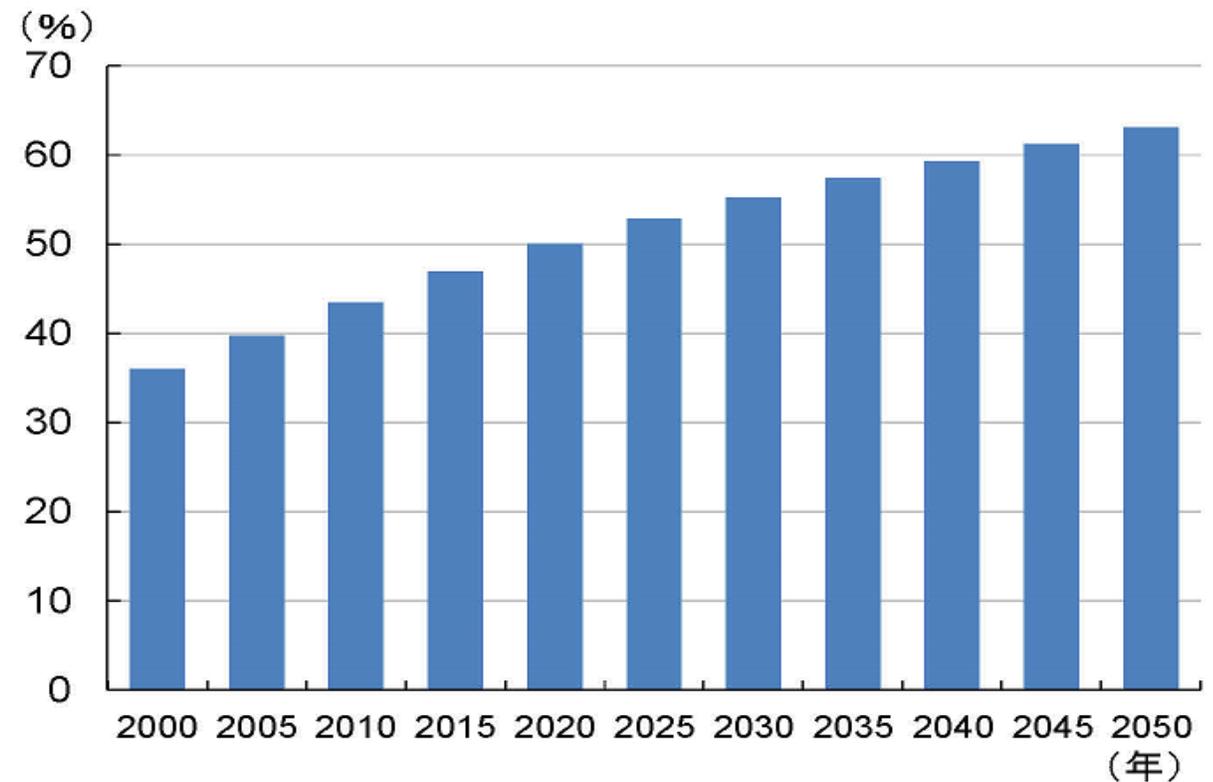
「Oneシンクタンクレポート MIZUHO RESEARCH&Analysis 2050年のニッポン」（2017年）

アジア各国の高齢者比率



(出所)国連人口部よりみずほ総合研究所作成

アジアの都市化率



(注)アジア：国連定義の東アジア、南アジア、東南アジアの合計。

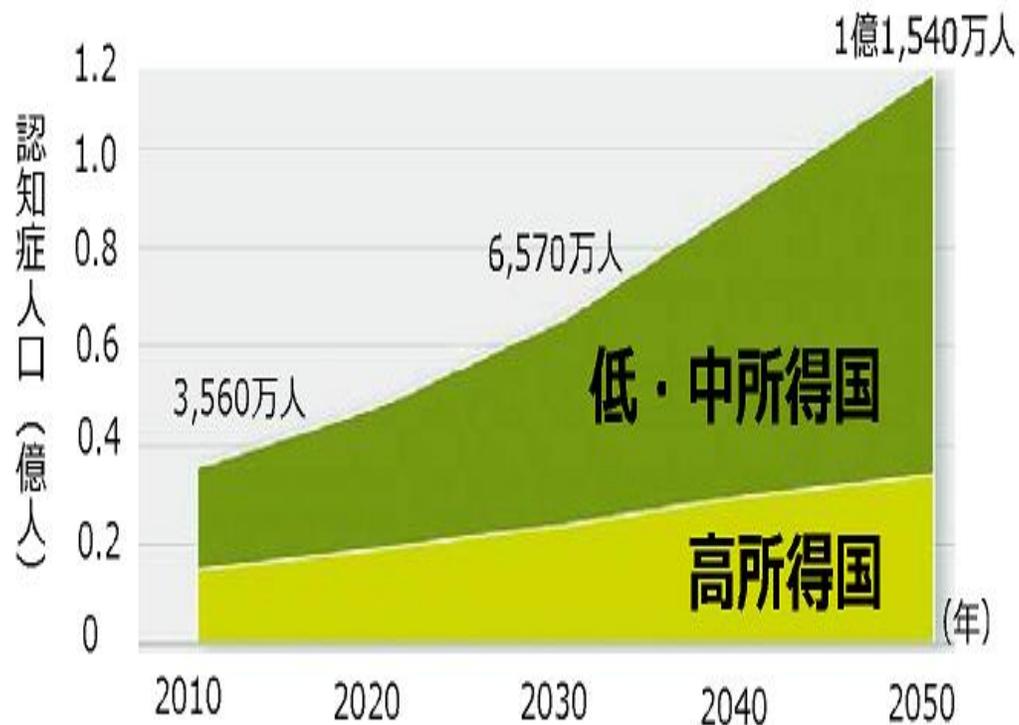
(出所)国連人口部よりみずほ総合研究所作成

4 健康

- 経済成長に伴い、**新興国においても、高齢化が進展**し、がん・生活習慣病が増加。新興国が抱える課題は先進国と共通のものとなりつつある。

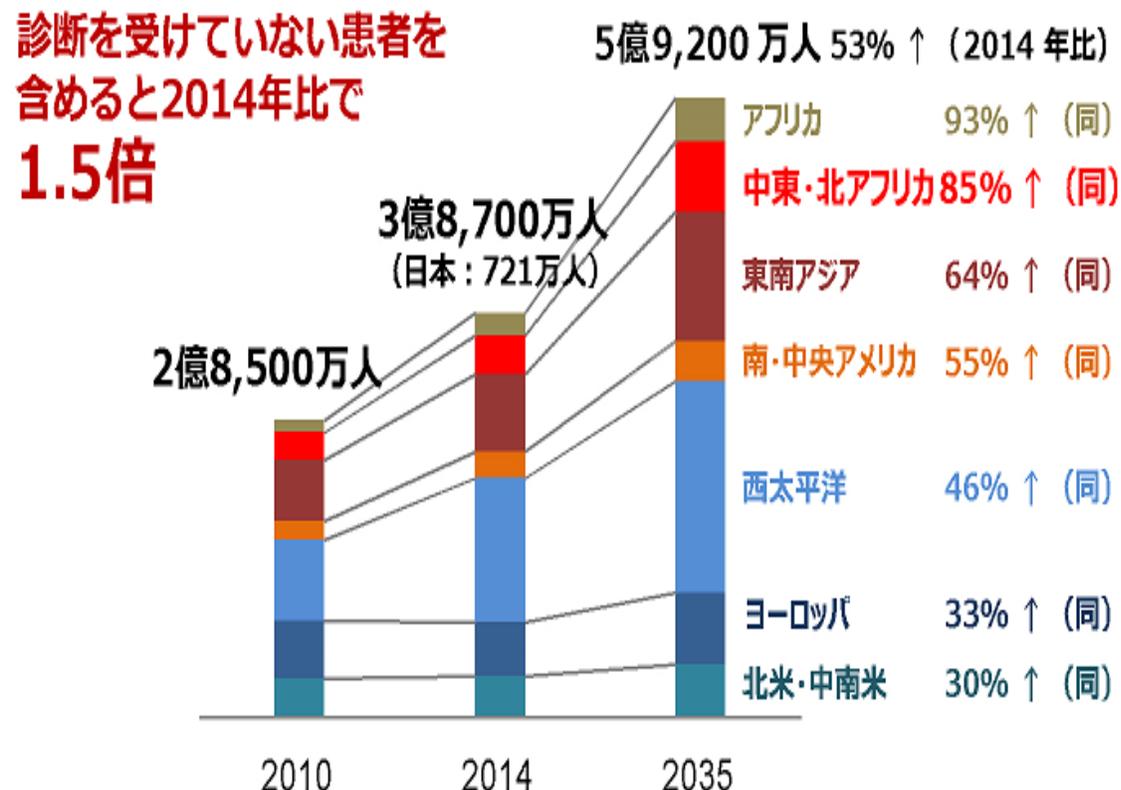
出典：経済産業省「2025年国際博覧会のテーマ・基本理念、日本で2025年に開催する意義について」（平成28年）

世界の認知症人口



出典：WHO「Dementia」(2012)

世界の糖尿病人口



出典：国際糖尿病連合(IDF)「IDF Diabetes Atlas」(2014 他)

【メガトレンド：個人の力の拡大】

(現在も存在しているが、今後、さらに顕在化すると予想されている。)

＜個人の力の拡大の要因とされるもの＞

- ・ 貧困層人口の減少と中間所得層の増加。
- ・ スマートフォンの普及。
- ・ ソーシャル・メディアの登場。

＜個人の力が拡大した場合に想定される社会への影響＞

- ・ 個人や小さな団体でも大きな成果を挙げられる。
- ・ 国境を超えた人材交流が盛んとなる。
- ・ 環境問題や貧困等のグローバルな課題に世界中の人々が一丸となって取組む。
- ・ 国の役割が非政府機関を結びつけるコーディネーター役となり、N G Oや多国籍企業、I T企業、世界的な科学者などの活躍の機会が増加。
- ・ 個人による寄付や慈善活動などの重要度が増す。

出典：Office of the Director of National Intelligence

「National Intelligence Council Global Trends 2030: Alternative Worlds」(December 12, 2012)

参考2 現在の世界と日本の比較(世界で最も住みやすい都市ランキング)

- 英雑誌「エコノミスト」の調査部門が平成30年8月13日に発表した2018年の「世界で最も住みやすい都市ランキング」を見ると、大阪は140都市中3位。

■ 世界で最も住みやすい都市ランキング 2018 (トップ10)

順位	都市	平均	安定性	健康医療	文化・環境	教育	インフラ
1位	ウィーン (オーストリア)	99.1	100	100	96.3	100	100
2位	メルボルン (オーストラリア)	98.4	95.0	100	98.6	100	100
3位	大阪 (日本)	97.7	100	100	93.5	100	96.4
4位	カルガリー (カナダ)	97.5	100	100	90.0	100	100
5位	シドニー (オーストラリア)	97.4	95.0	100	94.4	100	100
6位	バンクーバー (カナダ)	97.3	95.0	100	100	100	92.9
7位	東京 (日本)	97.2	100	100	97.2	100	89.3
8位	トロント (カナダ)	97.2	100	100	94.4	100	92.9
9位	コペンハーゲン (デンマーク)	96.8	95.0	95.8	95.4	100	100
10位	アデレード (オーストラリア)	96.6	95.0	100	94.2	100	96.4

参考2 現在の世界と日本の比較(世界都市ランキング)

- 森記念財団都市戦略研究所の「世界の都市総合力ランキング2018」を見ると、大阪は44都市中28位。

総合ランキング		28位
分野別	経済	28位
	文化・交流	22位
	居住	17位
	交通・アクセス	18位
	研究・開発	15位
	環境	35位

【総合ランキングのトップ10】

1 ロンドン 2 ニューヨーク **3 東京 (→)** 4 パリ 5 シンガポール 6 アムステルダム 7 ソウル
8 ベルリン 9 香港 10 シドニー **28 大阪 (↓)** **37 福岡 (→)**

【過去10年の大阪のランキング推移】

2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
25位	18位	15位	17位	23位	26位	24位	22位	26位	28位

参考 2 現在の世界と日本の比較(女性活躍)

○ 世界経済フォーラムが公表する男女平等の指標「ジェンダー・ギャップ指数2018」を見ると、日本は149カ国110位。

総合ランキング		110位
分野別	経済	117位
	教育	65位
	健康	41位
	政治	125位

【総合ランキングのトップ10】

1 アイスランド 2 ノルウェー 3 スウェーデン 4 フィンランド 5 ニカラグア
6 ルワンダ 7 ニュージーランド 8 フィリピン 9 アイルランド 10 ナミビア

【過去10年の日本のランキング推移】

2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
101位	94位	98位	101位	105位	104位	101位	111位	114位	110位

参考2 現在の世界と日本の比較(寄付等)

○英国の慈善団体「チャリティーエイド基金（CAF）」が公表する世界寄付指数（World Giving Index）調査を見ると、日本は144カ国128位。

総合ランキング		128位
分野別	他人を助けたか	142位
	寄付	99位
	ボランティア	56位

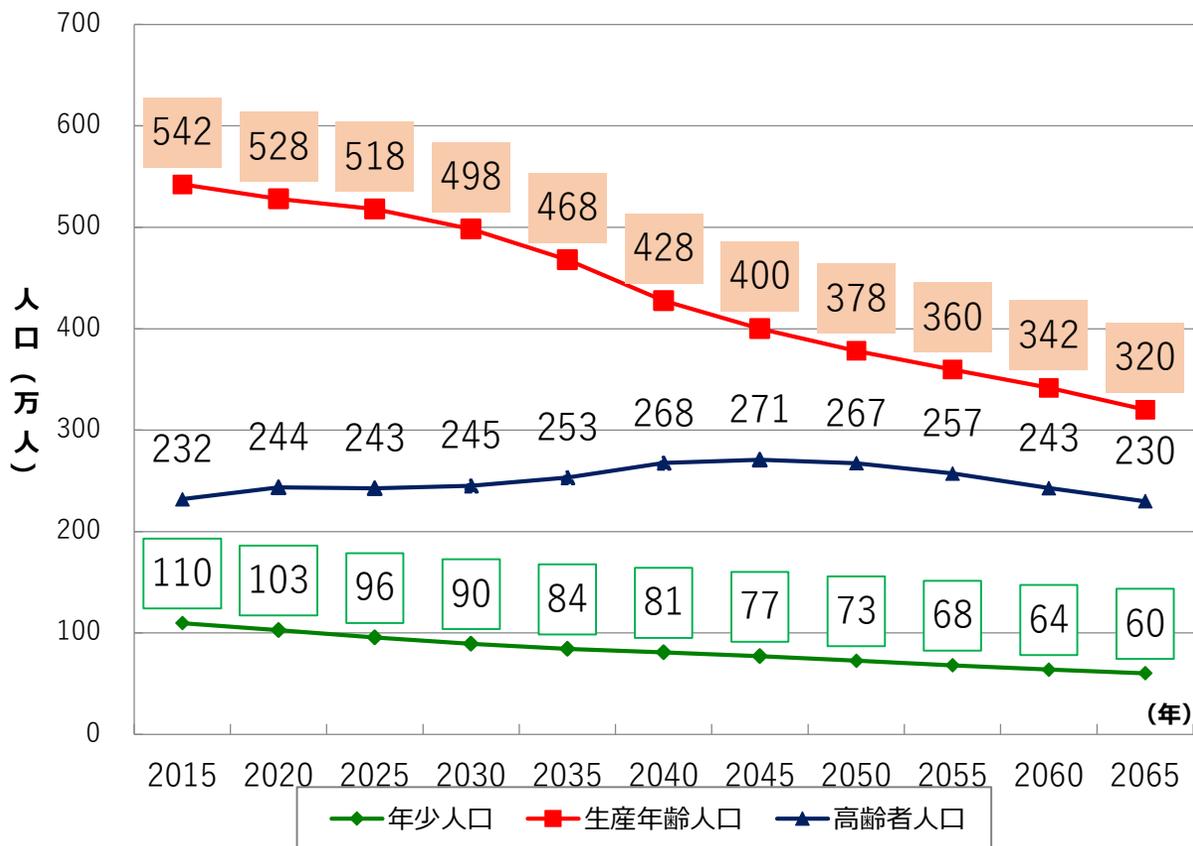
【総合ランキングのトップ10】

1 インドネシア 2 オーストラリア 3 ニュージーランド 4 アメリカ 5 アイルランド
6 イギリス 7 シンガポール 8 ケニア 9 ミャンマー 10 バーレーン

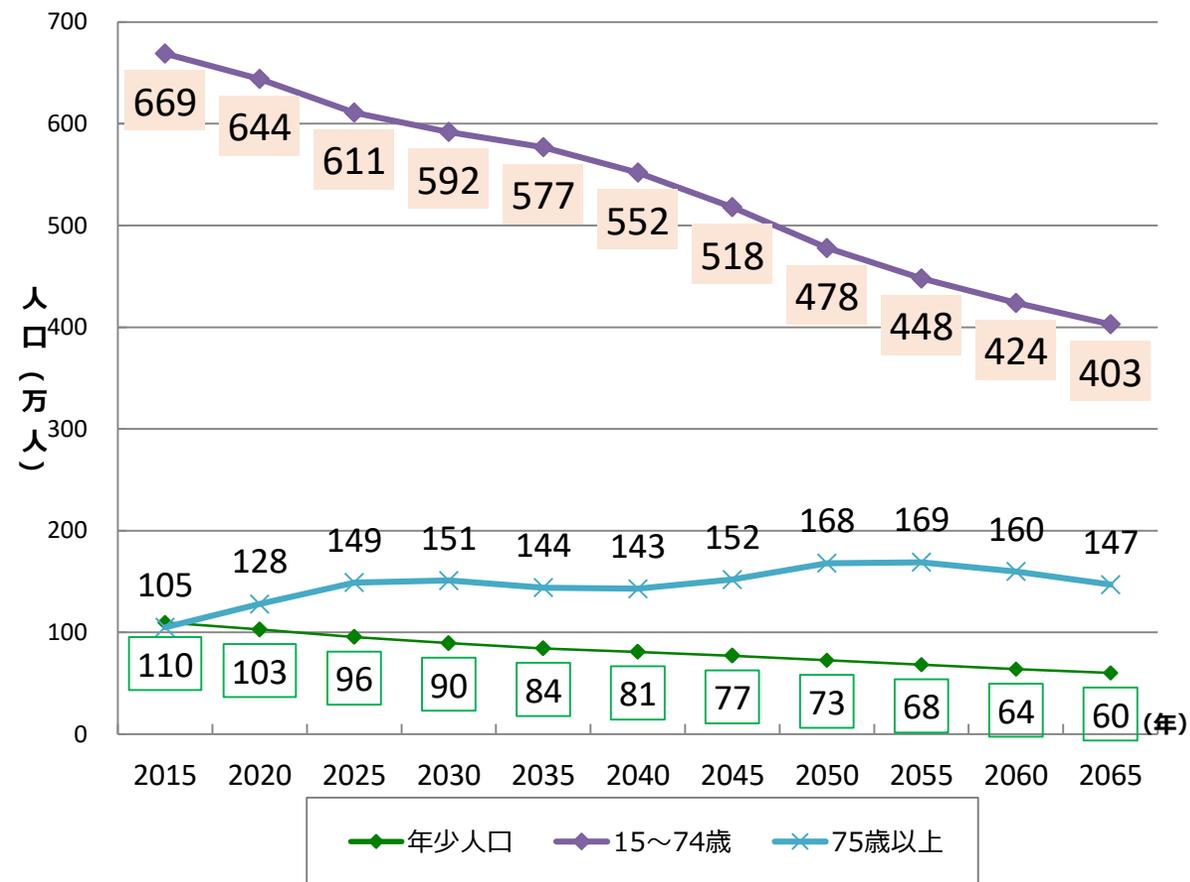
【過去の日本のランキング推移】

2010年	2011年	2012年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
119位	105位	85位	90位	102位	114位	111位	128位

高齢化人口（65歳以上）

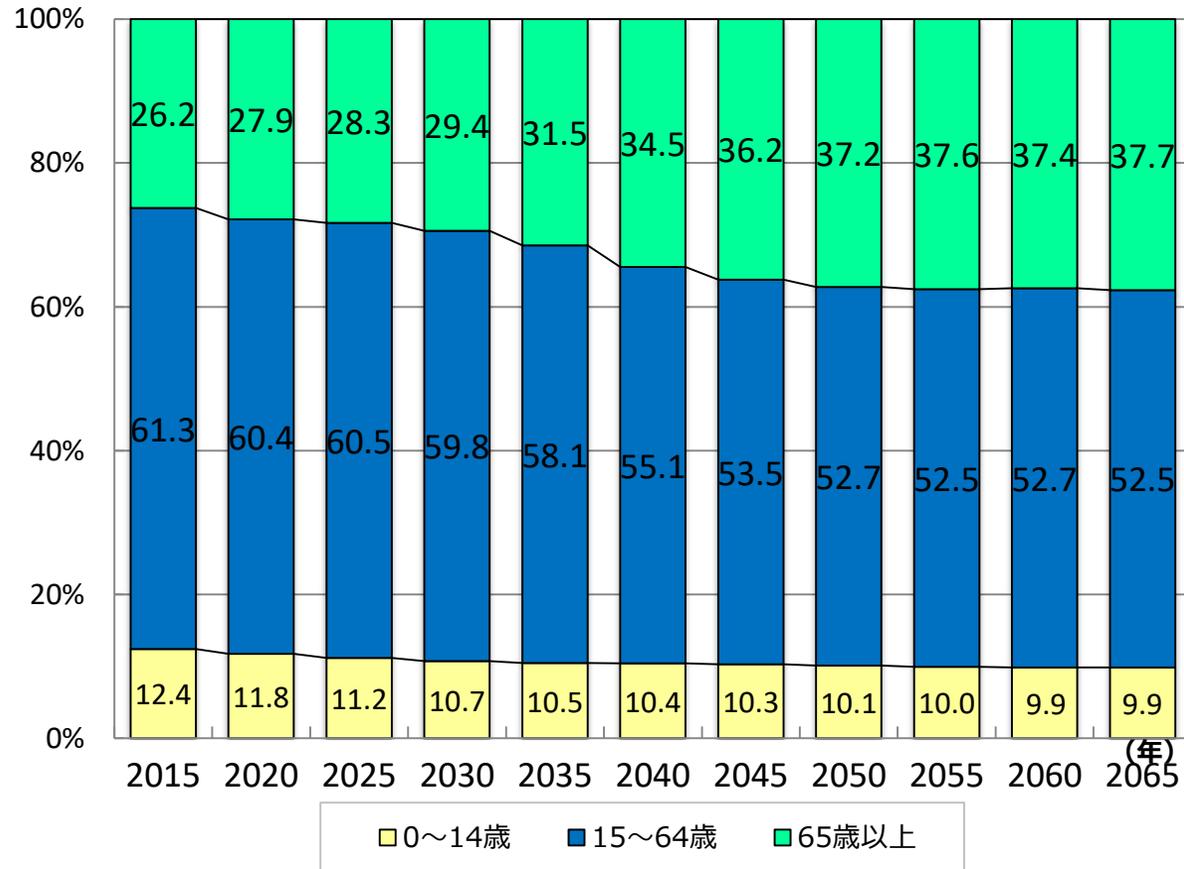


75歳以上



その他 大阪府の年齢三区分別将来予測人口（割合）

高齢化人口（65歳以上）



75歳以上

